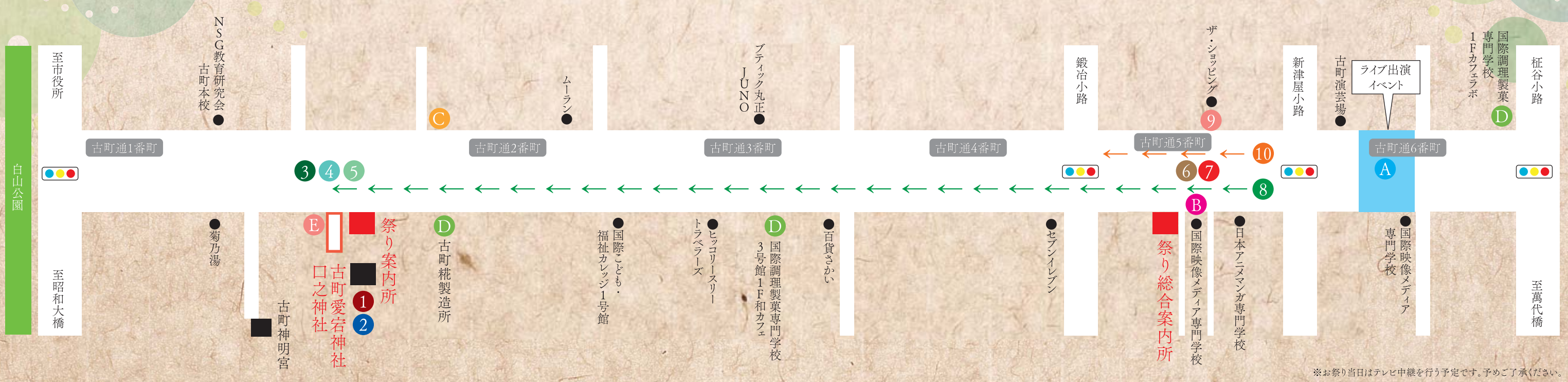
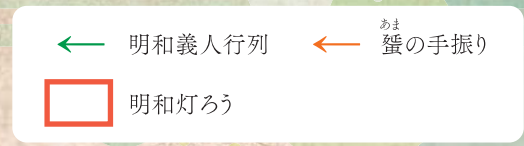


# 明和義人祭

2022年 8月27日(土) 11:00～

会場／古町通1番町～古町通6番町、古町愛宕神社・口之神社

※交通規制 9:00～20:30(古町通1番町～2番町、古町通5番町、古町通6番町)、17:30～18:30(古町通3番町～4番町／行列通過時のみ)



※お祭り当日はテレビ中継を行う予定です。予めご了承ください。

## 明和義人とは

18世紀半ば、江戸では第十代将軍徳川家治の側用人・田沼意次が幕府の政治を仕切っていました。同じ頃、新潟湊では困窮する町民の暮らしを救おうと立ち上がり、藩に代わり自らの手で町政を実現した人々がありました。自主自立の精神とエネルギーにあふれる住民自治の幕開でした。

後世の人々は、この出来事を誇るべき歴史として口伝にて伝え、町のために働いた涌井藤四郎、岩船屋佐次兵衛を中心とする人々を「明和義人」として崇め、明治時代に入ってから古町愛宕神社境内社、口之神社に祀りました。

## ことの起こりと経過

明和4(1767)年、財政悪化に苦しむ長岡藩は、湊を運営する新潟町民に多額の御用金を納めるように命じました。翌年、涌井藤四郎は難しくなった支払い期限を延ばしてもらおうと、同じ意見の人々と集い、会合しました。

9月20日、長岡藩の命を受けた町会所は、悪事を計画しているとして、藤四郎たちを牢に閉じ込めました。これに町の人たちは反発。26日夜、有力町民や米を買い占めていた商人の家を、次々にうちこわしました。奉行所はこの鎮圧に失敗し、藩は藤四郎たちを自由にしました。翌27日うちこわしは続き、さらに奉行所を目指しましたが、藤四郎は人々を押し留めました。

新潟町の人々は、藤四郎を代表とする町民自治の体制を整え、秩序を回復させました。長岡藩は、町会所による町政運営の再開を試みましたがうまくいかず、藤四郎たちによる町民自治は、その後2ヶ月に渡り続けました。

11月末、長岡藩は藤四郎たちを捕え、藤四郎とうちこわしに関わった岩船屋佐次兵衛を打ち首にしました。新潟町の人々は、藤四郎たちへの処罰は理不尽であると考え、ひそかに祀り、この事件を誇るべき歴史として後世に伝えました。後に藤四郎、佐次兵衛を中心とする町の人々は義人と呼ばれるようになり、昭和3(1928)年には白山公園に明和義人之顕彰碑が建てられました。

## 明るく体験

<b>A</b> 商店街イベント	
<b>B</b> ライブ出演イベント(古町通6番町)	
<b>C</b> 撮影スタジオ(古町通5番町)	
<b>D</b> 縁日・子ども遊び(古町通2番町)	
<b>E</b> 飲食テイクアウト販売(古町通3・6番町)	
<b>F</b> 明和灯ろう点灯(愛宕神社参道)	

## 和やかに観覧

<b>1</b> 採火式(口之神社)	
<b>2</b> 御霊おこし(口之神社)	
<b>3</b> 万代太鼓(古町通2番町:愛宕神社参道前)	
<b>4</b> 大正琴(古町2番町:愛宕神社参道前)	
<b>5</b> 古町芸妓舞(古町2番町:愛宕神社参道前)	

<b>6</b> 神楽舞(古町通5番町:i-MEDIA実習棟前)	
<b>7</b> 明和神菓まき(古町通5番町)	
<b>8</b> 明和義人行列(古町通5番町⇒口之神社)	
<b>9</b> 樽きぬた(古町通5番町)	
<b>10</b> 蟹の手振り(古町通5番町)	
<b>11</b> 御霊返し(古町通5番町⇒口之神社)	

※雨天時はプログラムに変更の可能性がありますのでホームページをご確認ください